

障害理解の促進ワーキング

メンバー（職名・敬称略）

座長 谷内 孝行（桜美林大学 健康福祉学群 准教授）

（当事者）

（当事者）

（当事者）

（当事者）

新井 敦子（社会福祉法人 調布市社会福祉協議会 障害者地域活動支援センター ドルチェ）

大澤 宏章（NPO 法人 羽ばたく会 めじろ作業所 施設長）

佐藤 祐香（社会福祉法人 調布市社会福祉協議会 調布市こころの健康支援センター）

大光 加奈子（社会福祉法人 調布市社会福祉協議会 調布市福祉人材育成センター）

吉野 強（社会福祉法人 調布市社会福祉事業団 調布市障害者地域生活・就労支援センター
ちょうふだぞう）

～第1回ワーキング～

日時：令和4年7月5日（火）18時から20時

場所：総合福祉センター201・203

参加者：委員10名 事務局10名

小テーマ「今年度ワーキングの方針共有と障害者当事者講師養成研修の取り組みについて意見交換」

内容：①今年度の障害理解の促進ワーキングの目的と本日のワーキングの内容説明を行い、障害理解の促進ワーキングについての目的や取り組む内容について理解を深めてもらう。

②障害者当事者講師養成研修の取り組みについて、その目的や内容について共有し、プログラム案について意見交換を行う。

主な意見

- ・研修の名前にキャッチコピーやサブタイトルをつけると、参加しやすくなると思う。
- ・調布市としての講師像をもう少し具体的な目標を提示する。
- ・障害者手帳の有無、調布市在住や在勤など、募集時の確認方法等をすでに研修を行っている他市から情報収集を試みるといいと思う。
- ・先輩講師に講師経験談を話してもらう時は、参加者と同じワークシートに取り組んでもらった上で話してもらうと参加者が模擬演習を考える時に参考になる。
- ・次年度以降、人材センターでの実施を支援する準備委員会等の設置を検討する。
- ・障害当事者講師養成研修の研修後、講師として活躍できる場を市役所で行っている差別解消法研修や新人研修等に繋げられる可能性がある。
- ・講師の活躍の場がどの程度求められているのか、今後調布市にある企業や大学等に問い合わせて、ヒアリング調査を行う。
- ・障害当事者講師養成研修の修了者に向けたフォローアップ研修が必要である。

まとめ

障害当事者講師養成研修のプログラムの内容を確認した。今後参加者が講師として障害の社会モデルを伝える担い手になれるよう研修の仕組みを整えつつ、運営面の体制も検討する必要がある。次回以降のワーキングでは、他市の障害当事者講師養成研修の内容や実施方法を伺う。

～第2回ワーキング～

日時：令和4年9月26日（月）18時から20時

場所：総合福祉センター201・203

参加者：委員9名 事務局10名

小テーマ「障害当事者講師養成研修の取り組みについての意見交換と他市の取り組みについて」

内容：①障害当事者講師養成研修のプログラムについて

前回のワーキング時に意見交換を行った障害当事者講師養成研修の内容を修正し、改めて意見交換を行った。

②仙台市における障害者講師育成の現状について（オンライン）

仙台市の障害者当事者講師養成研修の取り組みについて伺いつつ、委員の方たちから質疑応答の時間を設ける。

主な意見

○障害当事者講師養成研修について

- ・前回ワーキングの検討事項として「障害当事者講師養成研修」の研修名について、改めて検討し、「チェンジメーカー」や「障害理解サポーター」などの提案があった。
- ・障害当事者講師養成研修の運営する上での枠組みとして、研修参加者の合理的配慮や、点訳や研修最終日の発表の際の観覧者について検討した。

○仙台市の現在の取り組みについて

- ・障害当事者講師養成研修の成り立ちは、ワーキンググループを結成し、仙台市障害企画課が事務局となり当事者や相談員、学識経験者などが委員となり、研修で使用するスライドの原案作成、委員内でのデモンストレーションを行った。
- ・研修修了者に対して、研修に向けて経験の差があるため、研修内での資料を基に講義してもらう「個別研修」と、登録講師全体に対し、他障害を知ってもらうためのきっかけ作りを行う「全体研修」を実施している。
- ・講師登録した研修修了者は、福祉・看護関係の研修、障害を持つ方の家族会や銀行、ホテル、交通局等などに出向き、普及啓発を行っている。

まとめ

前回の障害当事者講師養成研修の内容を再度確認し、プログラム内容だけではなく、実際に募集をする際の対象者の条件などについての意見が聞かれた。仙台市の取り組みを参考にして、調布市で研修実施に向けた継続的な検討をしていく。

次回までに障害理解に関するニーズ調査を市内の企業や学校等に行い、今後の障害理解の普及啓発活動に繋げる。

これまでの到達点

第1回では、今年度ワーキングの目的、取り組みについて委員と共有を図った。また来年度から障害当事者講師養成研修の「事業化」に向けて、プログラム内容の具体化や取り組みについて、意見交換を行った。

第2回では、前回のワーキング時に意見交換を行った障害当事者講師養成研修を修正し、改めて意見交換を行った。また仙台市の講師養成の立ち上げから携わっている方とオンライン（ZOOM）により、現在の取り組み状況や今後の展望について伺うことが出来た。今後の参考にしていきたい。

今後の展望と課題

「発信者」としての障害当事者講師を育成する研修を来年度から実施するために、仙台市や実際に活動されている他市から伺った情報をもとに、再度研修プログラムや運営方法の検討を継続して行っていく。

また調布市においても、さらに広く市民に障害理解を普及啓発してくために、研修を修了した障害当事者が障害理解の普及啓発が出来る「場」の提供も検討していきたい。そのために市内の企業や学校などに対して、障害理解に関するニーズのヒアリング調査を実施する。

